

# Citizen activity information magazine

三浦市民生活向上会議会報

〒238-0102

神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3

三浦市総合福祉センター

電話 046-888-7347

発行：社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

発行責任者：出口 道夫

## Vol. 6

### 第六回ボラ活動推進部会の開催

十月三日に開催したボランティア活動推進部会では、前回に引き続き、第2次ボラ活動推進計画のためのアンケートの集計結果を事務局から報告し、市民活動助成事業についての話し合いをしました。また、災害時ボランティアセンターの設置マニュアルの策定に向けて準備をしていること、その意義について事務局から報告しました。

#### ボラ協・市民結果から見えた支援

業主婦・パート・無職となっています。

まず、事務局から三浦市ボランティア連絡協議会（ボラ協）の結果報告をしました。

講座を受けたことがあるかを尋ねたところ、受講経験者が約六割に上りました。アンケートをとった対象の中

で最も多く、ボラ協の意欲の強さと、連絡網の強固さがうかがえました。また、最も大切なボランティア振興策は何かを尋ねたところ、最も多かった答えは「人材育成」でした。

これを受けて、事務局では、今現在も社協や市内の各団体が様々な講座を実施しているが、それが「人材育成」に直結していないのではな

いかと考えました。そこで、「講座を受けると、

以前の自分よりもレベルが上がっている。」そのような講座にするために、市内の各団体が実施している講座と連携することにより、興味深い人にとってステップアップを図れるようなプログラムを組んでみてはどうだろうか？と考えました。

この説明を受け石崎委員は、「講座をステップアップさせるといふ意見が素晴らしい。」水野委員は、連携という部分について、「団体間のマッチングをして欲しい。」という意見を出し、「手話サークルに所属している、学校での授業を頼まれることがある。手話はできるが、パソコンによる資料作りは不得意。そこに力を貸してくれる団体と連携出

来たらいいと思っている。」と述べました。また、社協・市役所それぞれに望むことを質問しました。結果、社協では「人材育成」、市役所では「市民への普及・啓発」が最も多く選ばれました。これを受けて、松岡委員は「地域に情報を普及させることは確かに重要。身近な地域の情報は、意外と知らないものである。」と述べました。永井委員は情報の普及について、「学校の授業を手伝って貰える活動団体のリストが欲しい。」と話しました。

それから、事務局より市民の経験者・未経験者の結果の概要を報告しました。その中で、未経験者は情報を得るのにインターネット・経験者は広報紙や口コミを利用するといふ結果が得られました。事務局から、今後どういった情報媒体が地域にとって適したものになるのか検証を進めながら整備をするべきでは？と提案しました。

それを受けて、事務局では、今現在も社協や市内の各団体が様々な講座を実施しているが、それが「人材育成」に直結していないのではな



毎回熱心にご論議くださる部会員の方々

このアンケートをとる理由は、第二次ボランティア活動推進計画を、より地域住民のニーズに沿ったものにした、というものです。

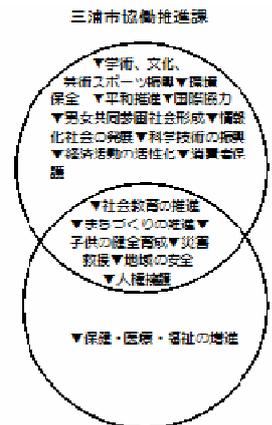
ボラ部会では、ボランティア活動の振興のために三浦市社協が果たすべき機能を、

「①情報」「②ヒト」「③モノ・場所」「④カネ」「⑤ボランティアセンター(ボランティア保険など、ボラセン独自の役割)」の五つと仮定し、計画の「柱」にしたいと考えてきました。

そこで今後は、これらの「柱」が、実際にニーズに即しているのかを、アンケート結果から検証していきたいと思えます。

## 市民活動助成事業について

現在行っている助成事業から、より地域福祉活動に沿った助成事業にするために、「市民活動助成事業」をスタートさせるべく、前回話し合いをしました。その中で、特に委員からの意見・疑問が集中した、助成事業要綱案の中



上の円が三浦市の支援領域。下の円が三浦市社会福祉協議会の支援領域。双方が重なった領域もある。

の二つの文言について整理しました。

### ◇「福祉的」

前回「福祉の範囲が分かりづらい」「公共の福祉全般という意味か?」という意見があり、三月二十六日のボラ部会にて市協働推進課との役割分担を検討したときの資料から、事務局の意見を述べました。

特定非営利活動法に定められているNPO活動の十七分類の中で、社協が担うべき市民活動団体(者)のジャンルを、主に「保健・医療・福祉」としました。また、市協働推進課と重なるジャンル(図一参照)については、どちらを選ぶのかは各団体(者)の自由としました。そのジャンル分けの通りに、助成の対象を分けると分かりやすいのではないかと提案し、同意を得ました。

◇「創造的」  
「何を以て『創造的』であると判断するのかが難しい」「高齢化したボランティア活動者には、今から新しいことをやって下さい」との意見がありました。

一方、「『創造的』と入れることで、自分たちの今までの活動を見直す機会ができると思う」「同じような活動を行っている団体が合同で行う活動など、新しい活動の流れが見つかる可能性がある」「新しい考えが生まれやすくなる」などのプラスの意見も聞かれました。事務局としても、常に変わるニーズを、創意工夫により満たそうとする団体(者)を支援したいと考えて作った文章でした。

そのため、要綱の「対象となる活動(第四条)」で定める要件の中で、「創造的」を絶対的要件にはしないが、言葉自体は残すことになりま

## 防災ボラセンについて

事務所から、現在策定作業を進めている「災害ボランティアセンター設置運営マニュアル」について報告しました。

東日本大震災以降、改めて「近所」の力が見直されています。被災直後の人命救助に民間人が果たした役割の大きさを誰もが再認識したからです。日頃から近隣所との人間関係を築くことが、すなわち災害に強い「町づくり」につながることを体験的に実感したのでしよう。

そうした中、大災害が発生するたびに社協が中心となってNPO、各関係団体が連



防災訓練の様子は、本会公式HPのブログで動画を見ることができます。

携・協働し、災害ボランティアセンターを立ち上げ、被災地の復旧・復興支援をおこなってきた実績も高く評価されるようになってきました。

全国の社協が住民参加を旨とする基本理念を忠実に順守し、被災者本位の自立支援活動を実践してきた賜物です。

そこで、本会でも被災時に慌てることのないよう、また、災害ボランティアセンターの運営に社協がかかわる意義等を再確認する作業として「災害ボランティアセンター設置運営マニュアル」の策定を急ぐことになりました。

### 編集後記

▼ホームページ是非見ご覧下さい。気合と根性で充実させました。乗せたい情報がありましたらお寄せください。私が取材に参ります(杉崎)▼私、今、乗りに乗っています(高井)▼私は、思い込みが激しいです(出口)▼杉崎:無念だ(佐藤)▼これからの半年間、地域福祉活動計画の進捗管理・評価活動に邁進します(長塚)▼なんだか、最近存在感が薄いような...気のせい(石渡)

次回のボラ部会は、十一月四日。オブザーバー大歓迎です。